令和５年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	文化財公開・活用事業			事業番号	13-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部歴史文化推進担当	立花　実	教育総務課歴史文化担当	立花　実	

計　画　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
		施策展開の方向	6	いつまでも学び生きがいがもてるまちをつくる
		施策	13	歴史・文化遺産の活用と継承
予算事業名	文化財保護啓発活動費			
事務区分〔選択〕	◉ 自治事務　○ 法定受託事務　（選択してください）→		法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前　～	終了年度	―
関連法令等	文化財保護法、伊勢原市文化財保護条例			
国・県の計画等			計画期間	
関連個別計画	伊勢原市第2期教育振興基本計画 伊勢原市文化財保存活用地域計画		計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 （事業を取りまく環境・市民ニーズ）	・伊勢原市文化財保存活用地域計画(令和3年7月認定)では、文化財の活用を推進していくことにより、市域の貴重な文化財の保護、継承を進めることとしています。 ・平成31年4月の文化財保護法の改正により、従来の調査研究・保存だけでなく、文化財の公開や活用の充実を図ることで、地域の活性化へつなげる方向性がより明確となりました。			
目　的 （何をどうしたいのか）	・市内外の様々な人が市域の歴史・文化遺産への理解を深めることができるようにするため、文化財の公開・活用を実施するとともに、文化財に携わる人材を育成する養成講座を開催します。また、観光部局や学校教育機関等と連携することで、文化財を生かした地域の活性化につなげていきます。			
主な対象 （誰・何を対象に）	市民及び市への訪問者			
事業内容 （手段、手法など）	・文化財保存活用地域計画のもと、計画的に事業を実施します。 ・市民団体をはじめとし、関連する団体や事業者とも連携を図り、市民の協力を得ながら、文化財の活用を図り、その継承へつなげます。			

事業行程	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	文化財の普及・啓発	文化財関連イベント開催	文化財関連イベント開催
	散策コース整備	―	案内板設置
	歴史解説アドバイザー養成講座の開催	6期後期 （認定118人）	7期前期開講 （認定118人）

目　標	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	文化財活用事業参加者数	432人 （令和2年度）	5,500人	6,000人

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	・令和3年度に文化庁の認定を受けた伊勢原市文化財保存・活用地域計画に基づき、文化財の調査、保存、活用、人材育成の各項目について、事業を実施していく予定です。 ・文化財所有者の協力のもと、国等の支援策を有効に活用しながら、市民が文化財に触れる機会を増やし、参加者に魅力を感じてもらえるよう取組内容の充実を図って行きます。

実施方法〔選択・記入〕				
○ すべて直接実施		◉ 左記以外		
☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者		
☑ 補助金		補助先	伊勢原市地域文化財保存活用協議会	
☐ その他		具体の内容		

実施結果	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	文化財の普及・啓発	文化財関連イベント一部開催	文化財関連イベント一部開催
	散策コース整備	事業中止	事業中止
	歴史解説アドバイザー養成講座の開催	コロ禍により延期	第6期後期、第7期前期開講

実施した取組の内容	文化庁の補助金を受け、「大山能・狂言」で使われる面と装束の展覧会をボランティアの協力を得て開催しました。さらに、観光庁の補助金を受け、宝城坊の木造十二神将の3D撮影、獅子頭の修理の映像化を行いました。また、関係団体と連携し、鎌倉殿と伊勢原の文化財展示、出前授業、調査報告会、遺跡見学会等を実施しました。

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	文化財活用事業参加者数	432人 （令和2年度）	6,882人	6,344人

コスト	年度	令和3年度　実績				令和4年度 実績			
	事業費合計(a)			42	千円			10,108	千円
内訳	国県支出金 ①			0	千円			8,342	千円
内訳	地方債 ②			0	千円			0	千円
内訳	その他特財 ③			0	千円			0	千円
内訳	一般財源 (a)-①-②-③			42	千円			1,766	千円
	国県支出金の内容	・文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）、自己負担割合：総事業費の15%以上 ・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業補助金、自己負担額：総事業費のうち1,371千円							
その他特財の内容	受益者負担	○ 有　◉ 無		前回の改定時期					
その他特財の内容	その他								
人件費	正規職員	1	人	8,180	千円	1	人	8,570	千円
人件費	その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
人件費	人件費合計(b)	1	人	8,180	千円	1	人	8,570	千円
	トータルコスト (a)+(b)			8,222	千円			18,678	千円
単位当たりコスト	対象数 定義	文化財活用事業の参加者数			単位	文化財活用事業の参加者数			単位
単位当たりコスト	対象数 対象数			6,882	人			6,344	人
単位当たりコスト	総事業費／対象数			1,195	円			2,944	円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	○ 計画どおり（A） ◉ 概ね計画どおり（B） ○ 計画どおり進捗せず（C）	B	**左記判断理由**	文化庁及び観光庁からの補助金を活用した事業については、計画どおり実施しました。また、関係団体との連携により講演会、見学会、資料展等、コロナ禍前に行っていた事業も実施することができました。ただし、事業によっては実施時期を繰り下げ、参加人数の制限等を設けるなどコロナによる影響を受けたものもあります。
実施水準 〔選択・記入〕	◉ 他市より高い水準で実施（A） ○ 他市と同水準で実施（B） ○ 他市より低い水準で実施（C） ○ 一律に比較できない事業	A	**他都市の事業内容等**	伊勢原の特色ある文化財について、展覧会や見学会、報告会等、さまざまな形で公開しました。また、NHK大河ドラマに合わせて、伊勢原の文化財を紹介する「鎌倉殿と伊勢原の文化財」の展示を観光部局や図書館、市観光協会と連携して行いました。それぞれの内容については、他市と比べても高い水準にあると考えられます。
有効性 〔選択・記入〕	◉ 高い（A） ○ 普通（B） ○ 低い（C）	A	**左記判断理由**	文化財の公開・活用事業により、伊勢原の特色である歴史文化について市内外の方に興味関心を持っていただくことができました。また、いせはら文化財展覧会では解説員を文化財関連団体に依頼したことにより、人材育成の場ともすることができました。
効率性 〔選択・記入〕	◉ 効率的に実施されている（A） ○ 改善の余地がある（B） ○ 抜本的な改善が必要である（C）	A	**左記判断理由**	文化財の公開・活用事業については、国庫補助金を事業費として活用しています。また、実施に際しては関係部署と連携しているほか、市民ボランティアの協力を得ています。

取組内容の改善（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所管部長による総評	本事業は伊勢原市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の活用を図り地域の活性化へつなげるとともに、文化財に関わる人材を育成しながら、地域の歴史文化に対する市民の理解を高めることを目指しています。今後も文化庁、観光庁の補助金等により資金を確保し、活用事業を展開していくことで、市民団体、関連企業等と連携を深め、文化財の保存につなげていく必要があります。